

芦屋市指定文化財 親王寺所蔵考古資料一括 概要

1 指定年月日 平成2年3月22日(芦屋市指定文化財第1号)

2 内 容

(1)流水文銅鐸(堂ノ上銅鐸) 1口

堂ノ上(現在の楠町付近)出土。外縁付鈕Ⅱ式。

従来、元禄4年(1691)の阿保親王塚古墳の周濠修築の際に発見されたという所伝があったが、山口県文書館所蔵の毛利家文書の中に実際の出土地が堂ノ上であり、宝永3年(1706)に出土したことが記されている。

(2)銅鏡(阿保親王塚古墳出土) 4面

親王寺の寺伝によると、元禄4年(1691)の阿保親王 850 回忌に際して毛利綱元が墓域を改修した時に発見されたとされる。

①連弧文鏡

面径 16.3cm, 重量 533g。半球形の鈕を持ち、鈕座は四葉座、鈕孔は半円形。後漢鏡。

②三角縁波文帯三神二獣博山炉鏡

面径 21.5cm, 重量 782g。半球形の鈕を持ち、鈕孔は長方形。内区には6つの乳によって分割された区画に3つの神像、2つの獣像、博山炉が配される。

広島県掛迫古墳、岡山県田邑丸山2号墳や奈良県佐味田宝塚古墳、佐味田貝吹古墳、伝・渋谷、岐阜県円満寺山古墳で同型鏡が出土している。

③三角縁波文帯神獣鏡破片

復元面径約 22cm, 現重量 309g。

④三角縁神獣鏡破片

現重量 46g

(3)石製銚帯(四ツ塚) 5点

蛇尾 1点, 丸鞆 2点, 巡方 2点。

石材は深成岩類であると考えられ、表面及び側面は丹念に研磨されており、光沢がある。裏面には石挽き鋸による切断痕跡がみられ、また、帯への装着時に引っ掛けるための「潜り穴」も見られる。穴の中には一部金属線が残る。平安時代のものである可能性が高い。

毛利家文書によると、宝永年間(1704～1711)に阿保親王塚古墳の東側周辺にあった四つの塚の一つから出土したとされる。

3 阿保親王塚古墳について

芦屋市翠ヶ丘町所在。六甲山地より南へのびる翠ヶ丘丘陵上に位置し、現状の墳頂部標高は29.854m。江戸時代、長州藩毛利家が実施した整備により墳丘は大きく改変されている。平成30年度に宮内庁書陵部が実施した阿保親王墓墳丘外形調査によって、葺石や円筒埴輪列が確認された。円筒埴輪列は直線的であり、このことから、方墳あるいは一部に方形原理をもつ墳形を反映している可能性が指摘された。